

創立31年目を迎えて —「誠実な心」の人であれ—

九州大学名誉教授 竹 下 健次郎*

当協会も今年で創立31年目を迎えることになりました。顧みれば、当時九州電力社長・永倉三郎氏、ならびに福岡県モーターボート競走会会長・永島武雄氏から賜った絶大な恩恵を忘れることはできません。すなわち、永倉氏からは現在の敷地を提供していただき、永島氏からは日本船舶振興会より多額な援助資金を提供していただきました。

また、元九州大学学長・山田稯先生には「理事長は無報酬」という私の信条をご理解されて、快く初代理事長にご就任いただき、ついで二代理事長・表俊一郎先生、三代理事長・細川巖先生へと引き継がれてまいりました。そして、四代目の高島良正理事長を迎えるや、その卓越した経営理念によって偉容ともいえる建物の新装と職員約200人の陣容を見ることができ、名実ともに今日の確固たる協会を樹立していただくことができました。不肖私は、影法師ながらも、いささか微力を尽くして参りましたが、お陰様で破格の「終身顧問」として身に余る瀟洒な個室に鎮座しております。

その私も、齢83歳を過ぎましたが、杖を突きながらも一路「天寿山」を目指して元気に歩いております。ところが昨今、或る一件に遭遇し、悄然として心を痛めているのです。この件は当協会とは無縁なようではあります

が、もって他山の石とすべく、当協会職員各位に申しあげておきたいことであります。

それは今年の一月下旬、ある親友から孫娘さんの就職を頼まれたことに端を発します。彼女は、東京の大学の応用化学科の学生で成績も優秀だったので、わが国屈指の食品会社の常務にその旨を願い出ました。しかし、同常務から「弊社は来年度の化学系学士の採用はしないので、関連会社社長に採用するよう頼んでおきましょう」という、まことにご親切な電話がありました。その社長とは食品会社の九州工場長時代にゴルフを共にした間柄だったので、喜んで入社試験を受けさせてもらうことにしました。ところが、受験終了の翌日、社長より「化学の成績が悪いので採用できません」という電話。「そんなに悪ければ仕方ありませんね」と、私は思わず返事をしてしまいましたが、その後本人ともよく連絡したところ、出題された化学の問題は応用化学科の学生には到底無理な内容で、面接の際にも嫌みに満ちた口ぶりだったとのこと。憔悴して帰宅した彼女は一夜涙に咽んだという。要するに、その社長には最初から採用の意志はなかったらしく、親会社の常務からの要請を回避するための手段だったようでした。もしそうであったならば、最初になぜきっぱりと断ってくれなかったのか。純情無垢な乙女

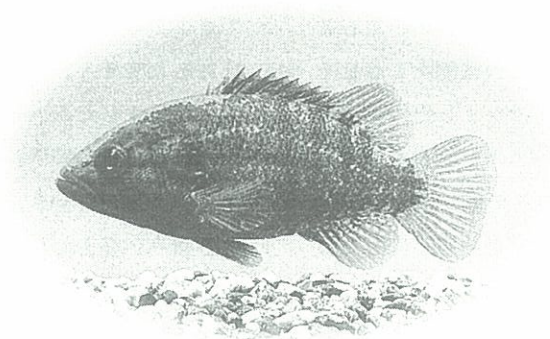
* (財)九州環境管理協会 名誉顧問

心をなぜ無惨にも傷つけたのかと、私は悄然と心を痛めているのです。

昨今、雪印食品などの不信義な事件が問題になりました。それは一社員の不法な詐欺行為であったが、会社の命運を決する悲劇となりました。社長の偽善ともいえるこの行為と

その心は、やがては同社の将来にも大きな影をさすことでしょう。

当協会の職員各位よ、この件を他山の石として心に銘記し、真実一路の「誠実な心」の人であってほしいと、心から祈念してやみません。



オヤニラミ